

「それでも神はいるのか」  
ヨブ記2章7～10節

## はじめに

今日の聖書箇所に出てくるヨブという人は、神を信じる誠実な人で、息子7人、娘3人のいる家族にも恵まれた人でした。おまけに大変な財産家で、その地方一番の有力者でした。ところが、不幸に襲われ、子どもたち全員と全財産を失うことになりました。さらに、彼はひどい病気にかかり、足の裏から頭のとっぺんまでひどいおできが出来て、土器のかけらで体中をひっかいても収まらないほどになりました。それを見かねたヨブの奥さんは「あなたは、これでもなお、自分の誠実さを固く保とうとしているのですか。神を呪って死になさい」と言いました。しかし、ヨブは、「あなたは、どこかの愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざも受けるべきではないか。」と答えました。

## 1. それでも神はいるのか。

この世には、神はいると信じる人と、いないと考える人と、いてもいなくてもどちらでもかまわないと考える人がいます。

「神はいない」と考える人は、

(1) 「この世に不幸があるから、神はいるはずがない」と考えます。

毎年のように起きる災害で、多くの人が被災し、なくなります。神がいるなら、どうしてこのようなことが起きないよういしないのか。だから、神などいない。ヨブの奥さんもこのような考えでした。

(2) 宗教は嫌いだ。

こういう人は、神を信じようとするのは、弱い人のすることだ。宗教は、争いを起こすから嫌いだ。1995年に起きたオウム真理教地下鉄サリン事件以降、人々の宗教に対する警戒心が急速に高まり、今日に及んでいます。

(3) 無神論者

これは、「科学がすべてだ」と考える人です。「神は人間が考え出したものだ」と言います。

(4) いてもいなくてもいい。

「神がいてもいなくても、自分には関係ない。自分が楽しければそれでいい」と考える人たちです。

## 2. 「神を知ることが出来るのか」が、本当の問題。

私たちは、神がいるとか、いないとかを問題にしますが、本当の問題は、「神がいるとしても、私たちはそれを知ることが出来るのか」ではないでしょうか。

## 三つの手がかりと一つの実事

### (1) 被造物による神の啓示。

私たちはみな神を知っています。それは、神がそれを明らかになさったからです。「神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません」(0-7 1:20)。

### (2) 神のことば。

神が存在しても、神がお語りにならないければ、私たちに神の思いや、計画はわかりません。が、神はお語りになったのです。「神は昔、預言者によって多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語らえましたが、この終わりの時には、御子のあって私たちに語られました」(「ハブル 1:1-2」)。

神によって語られたことばが、書物となって残されています。それが聖書です。ですから私たちは、神を知る二つの手がかりを与えられているのです。

### (3) イエス・キリスト。

神は、神の御子をこの世にお遣わしになり、神がどのような方であることを示し、救いの道をお示しになり、救いを完成なさいました。

### (4) 神を神としてあがめようとしない。

神を知ることが出来るように神がご自身を啓示なさったにもかかわらず、人間は神を神としてあがめようとしませんでした。その結果、人間の思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。つまり、神を知ることが出来なくなりました(0-7 1:21)。

## 3. 聖書の神

では、聖書の神はどのような神でしょうか。

### (1) 全知全能の神。

ヨブの奥さんのことをもう一度考えてみましょう。ヨブは神を信じてまじめに生きてきたのに、子どもたち全員と財産を全部失ったばかりか、病気で苦しみました。それを見た奥さんは「こんなに私たちを苦しめる神などいるはずはない。いたとしてもそんな神は呪って死んだほうがましです」と考えたのです。

実は、神はすべてをご存じて、このことが起こるのをお許しになったのです。

イエス様の時代に、生まれながらの盲人を見た弟子たちが「なぜ、このようことが」とイエス様に質問しました。するとイエス様は、「神のわざがこの人に現れるため」とお答えになりました。

詩篇 139 篇には次のようなことばがあります。

「主よ。あなたは私を探り、知っておられます。あなたは私が座るのも立つのも

知っておられ、遠くから私の思いを読み取られます。あなたは私の歩くのも伏すのも見守り、私の道のすべてを知り抜いておられます。ことばが私の舌にのぼる前に、なんと主よ、あなたはそのすべてを知っておられます」（詩篇 139:1-4）。

私たちには4人の子どもと 10 人の孫がおり、全員クリスチャンで神様に仕えており、皆さんから「お幸せですね」と言われます。私たちは「これは奇跡よ」と言っています。しかし、苦しいことがなかったわけではありません。

妻は、鬱病になったり、腸閉塞で3ヶ月入院したり、長男が16年も教会を離れたり、3男が精神的な病で学校を休学したり、私が癌にかかったり人工膀胱になり、妻が腸の破裂で人工肛門になったりいろいろありました。

だからといって、イエス様が私たちを見捨てられたわけではありません。ちゃんと見守っていてくさいました。

## (2) 神のなさることはすべて正しい。

神は絶対に正しい方です。神が悪いことを行えば、神ではないことになります。と言うことは、私たちは、「神がいるのにどうしてこんなことが起きるのか」と神に疑問を持ったりしますが、神は決して間違ったことはなさいません。と言うことは、神のなさることには、必ず意味があるということです。

ヨブは、こう言っています。「神が望むままに私を砕き、御手を伸ばして私を断たれるのであれば、それはなおも私にとって慰めであり、容赦ない激痛の中でも、私は小躍りして喜び。私は聖なる方のことばを拒んだことがない」（6:9-10）。

## (3) 神は愛です。

聖書の神は愛です。ですから、神のなさることは、すべて正しいだけでなく、神の私たちに対する愛から出ています。

イエス・キリストのご生涯を見ると、この神の「全知全能」「正しさ」「愛」がはっきりと現れています。新約聖書にはマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネという4つの福音書があり、イエス様のご生涯が記されています。

その焦点は、十字架です。神の御子イエス・キリストは、罪人として十字架で殺されました。神はなぜこのことを許されたのでしょうか。どうして助けなかったのでしょうか。

イエス・キリストの十字架は最悪です。神の御子が罪人として十字架で殺されてしまうのです。しかし、実は、それは神のみこころであり、神がそのように計画し、実行なさったのです。私たちの罪を赦すために、私たちの身代わりとなり、十字架で死ぬことが神のみこころでした。このイエス様の十字架の死なしに、私たちの罪が赦されることはありません。神様は、私たちを愛しておられます。神は私たちに対する愛を、イエス様の十字架の死によってはっきりとお示しになったのです。

私たちは、さがみのキリスト教会に来るまで、8年間、香川県のまんのう町で伝道していました。そこで、合葉やよひさんという方にお会いしました。60歳前後

の方で、車椅子の生活をしていました。大学1年生の時に交通事故でその体になっ  
た  
そうです。事故後の3ヶ月は意識不明の生活が続きました。意識が戻ったとき、  
事  
故以前の記憶を全部失っていました。リハビリが始まり、ことばも始めから学び  
ま  
ました。香川県の人たちは、関西弁に似た香川弁を話すのですが、合葉さんは標準  
語  
を話すので、不思議に思い聞いて見ると、リハビリで教えられたのが標準語だっ  
た  
のです。

退院後は施設に入り生活していましたが、あるとき外で、犬を散歩させているご  
婦人に会いました。犬が大好きだった合葉さんは、その婦人が通っている教会に出  
席するようになりしました。その教会は小畑進牧師の池戸キリスト教会でした。その  
教会でイエス様に導かれ、信者になりました。イエス様を信じてからはとても元気  
になり、家に帰ることになりました。お父さんが合葉さんのために家を用意してく  
れ、そこで犬と一緒に生活するようになりしました。ですが、その家は琴平町にあり、  
池戸には通えなくなりました。時々小畑牧師が訪問してくれていました。私たちが  
行ったまんのう町は琴平町の隣でしたので、小畑牧師が合葉さんを紹介して下さっ  
たのです。以来、合葉さんは、毎週タクシーで教会にようになりしました。まんのう  
町の隣に善通寺市があり、そこに四国学院大学というミッションスクールがありま  
した。実は、合葉さんはその大学の学生だったのです。私は、その宗教主任の先  
生にお願いして、学生の前で合葉さんに証をしてもらいました。合葉さんは、自分  
は交通事故に遭いこんなに不自由な体になったが、イエス様を信じて今は、とても  
幸せですと、証してくれ、学生や教師の方々には大きな感銘を与えました。

イエス様は、苦しむ者とともにいてくださいます。イエス様のように苦しめられた  
方はいないでしょう。聖書はこう言っています。「私たちの大祭司（イエス）は、  
私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべ  
ての点で、私たちと同じように試みに会われたのです」（ヘブル4:15）。

イエス様はこう言われました。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わ  
たしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」（マタイ11:28）。

## 勧め

目には見えませんが、神様はいらっしゃいます。イエス様もいらっしゃいます。自分  
に起こっていることが理解出来ないかも知れません。しかし、神様はすべてを知ってお  
られます。そして  
決して間違ったことはなさらず、あなたを愛していてくださいます。そのように神様を  
信じましょう。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒  
16:31）

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じ  
る者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」（ヨハネ3:16）。